

倫理審査委員会 業務手順書  
医療法人社団唯知会 静岡みらいスポーツ・整形外科  
作成日：令和4年4月2日（初版）

本手順書の構成

第1章 倫理審査委員会

- 第1条（目的と適用範囲）
- 第2条（倫理審査委員会の責務）
- 第3条（倫理審査委員会の設置及び構成）
- 第4条（倫理審査委員会の業務）
- 第5条（倫理審査委員会の運営）

第2章 倫理審査委員会事務局

- 第6条（倫理審査委員会事務局の業務）

第3章 記録の保存

- 第7条（記録の保存責任者）
- 第8条（記録の保存期間）

第4章 その他の事項

- 第9条（秘密の保持）
- 第10条（公表）

第1章 倫理審査委員会（目的と適用範囲）

第1条

- 1 本手順書は、「ヘルシンキ宣言」の理念に基づいて、倫理審査委員会の実施に必要な手続きと運営に関する手順を定め、人を対象とする医学系研究の適正な実施を図ることを目的とするものである。
- 2 本手順書は、規定により設置した倫理審査委員会の運営に関する手順及び記録の保存方法を定めるものである。
- 3 本手順書は、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針(以下「倫理指針」)」に基づいて実施する研究責任者から審査依頼を受けた研究に対して適用する。（倫理審査委員会の責務）

第2条

- 1 倫理審査委員会は、「ヘルシンキ宣言」の理念に従って、すべての研究対象者の人権の保護、安全の保持

及び福祉の向上を図らねばならない。

2 倫理審査委員会は、社会的に弱い立場にある者を研究対象者とする可能性のある研究には特に注意を払わねばならない。

3 倫理審査委員会は、研究者及び分担研究者(以下「研究者等」)から研究の実施の適否について意見を求められたときは、倫理指針に基づき、個人情報保護、並びに倫理的、科学的及び医学的妥当性の観点から、研究者等の利益相反に関する情報も含めて中立的かつ公正に研究の実施及び継続等について審査を行わねばならない。

4 倫理審査委員会の委員及びその事務に従事する者は、審査及び関連する業務に先立ち、倫理的観点及び科学的観点からの審査等に必要な知識を習得するための教育・研修を受けなければならない。また、その後も、適宜継続して教育・研修を受けなければならない。

5 倫理審査委員会の委員及びその事務に従事する者は、第 3 項の規定により審査を行った研究に関連する情報の漏えい等、研究対象者等の人権を尊重する観点並びに 当該研究の実施上の観点及び審査の中立性又は公正性の観点から重大な懸念が生じた場合には、速やかに倫理審査委員会の設置者に報告する。

(倫理審査委員会の設置及び構成)

### 第 3 条

1 倫理審査委員会は、医療法人社団 静岡みらいスポーツ・整形外科 理事長・院長が指名する以下の者をもって構成する。

- 1) 医学・医療の専門家等、自然科学の有識者
- 2) 倫理学・法律学の専門家等、人文・社会科学の有識者
- 3) 研究対象者の観点も含めて一般の立場から意見を述べることのできる者
- 4) 倫理審査委員会の設置者の所属機関に所属しない者
- 5) 5 名以上の委員からなること
- 6) 男女両性で構成されていること

2 委員長及び副委員長は委員の中から委員全員の互選により選出するものとする。なお、外部委員を委員長に選出することも可とする。

3 委員の任期は原則 2 年とし、事前に離任の申し出がない場合には自動的に2 年間延長されるものとし、その後も同様とする。

4 委員長が何らかの事由のため職務が行えない場合には、副委員長がその職務を代行する。

5 委員に欠員が生じた場合は、本会会長は後任の委員を指名する。この場合、第 3 項の規定にかかわらず、後任委員の任期は前任委員の残任期間とする。

(倫理審査委員会の業務)

### 第 4 条

1 倫理審査委員会は、その責務の遂行のために、研究実施に関する必要な最新の以下の資料を研究者等から入手する。

- 1) 研究実施計画書
- 2) 当該被験薬の概要書
- 3) 症例報告書の見本(研究実施計画書において、症例報告書に記載すべき事項が十分に読み取れる場合は、当該研究実施計画書を提出することでよい(以下、本手順書において同様))
- 4) 説明文書、同意文書(文書によるインフォームド・コンセントが必要な場合)
- 5) 研究者等の履歴書・研究分担者の氏名を記載したリスト
- 6) 医薬品・医療機器添付文書、インタビューフォーム等の概要書
- 7) (該当する場合) 共同研究機関における研究の実施の許可、他の倫理審査委員会における審査結果及び当該研究の進捗に関する状況等に関する資料
- 8) モニタリングに関する手順書、監査に関する手順書(ただし、研究実施報告書に規定がある場合本号は非該当とする)

9) 利益相反に関する資料

10) 研究対象者の募集手順(広告等)に関する資料(募集する場合)

11) 研究対象者の安全等に係る報告・資料

12) 研究の費用の負担について説明した文書に関する資料(研究対象者への支払がある場合)

13) 当該研究によって生じた健康被害に対する補償に関する資料(侵襲を伴う研究の場合)

14) 研究等の現況の概要に関する資料(継続審査等の場合)

15) その他倫理審査委員会が必要と認める資料

2 倫理審査委員会は、以下の事項について研究者等から提出された資料及び報告を受けた事項について調査審議し、記録を作成する

1) 研究を実施する事の倫理的、科学的及び医学的・薬学的見地からの妥当性に関する事項

- ・ 医療機関が十分な臨床観察及び試験検査を行うことができ、かつ、緊急時に必要な措置を採ることができる等、当該研究を適切に実施できること
- ・ 研究責任者らが当該研究を実施する上で適格であるか否かをその最新の履歴書等により検討すること
- ・ 研究責任者らが当該研究を実施する上で利益相反状態に問題がないこと
- ・ 研究の目的、計画及び実施が妥当なものであること
- ・ 研究対象者の同意を得るに際しての説明文書及び同意文書の内容並びに同意を得る方法が適切であること。
- ・ オプトアウトによる場合、通知・公開する情報内容が適切であること
- ・ 臨床研究の実施により発生した重篤な有害事象及び不具合等について報告された場合には、報告内容を検討し、当該研究の継続の可否を審査すること
- ・ 研究対象者への健康被害に対する補償の有無及び、補償の内容が適切であること
- ・ 研究対象者に対する支払いがある場合には、その内容と方法が適切であること
- ・ 研究対象者の募集手順(広告等)がある場合には、募集の方法が適切であること
- ・ モニタリング、監査実施の有無及び、その実施体制と手順が適切であること
- ・ 個人情報の取り扱い方法が倫理指針及びその他の関係する法律等に則り適切であること
- ・ 研究費の有無及び、その内容と方法が適切であること
- ・ 受託契約を伴う場合、契約内容が適切であること

2) 倫理審査委員会が研究実施中又は終了時(中断時及び中止時を含む)に行う調査審議事項

- ・ 研究対象者の同意が適切に得られていること
- ・ 研究対象者に対する緊急の危険を回避するなど医療上やむを得ない事情のために行った研究実施計画書からの逸脱または変更に関する事
- ・ 研究対象者に対する危険を増大させるか又は臨床研究の実施に重大な影響を及ぼす臨床研究等に関するあらゆる変更
- ・ 研究等の進捗状況に関する適切性
- ・ 研究等の結果及び発表の方法
- ・ 研究実施中に当該医療機関で発生した重篤な有害事象に基づく当該研究の継続の可否
- ・ 研究対象者の安全又は当該研究の実施に影響を及ぼす可能性のある重大な情報に基づく当該研究の継続の可否
- ・ 研究の実施状況の概要に基づき、研究が適切に実施されていること
- ・ 研究計画書及び同意説明文書等の変更に関する事項
- ・ その他倫理審査委員会が求める事項

3) 倫理審査委員会は、第 2 項 1)号及び 2)号の規定により審査を行った研究について、倫理的観点及び科学的観点から必要な調査を行い、研究者等に対して、研究計画書の変更、研究の中止その他当該研究に関し必要な意見を述べることができる。

4) 倫理審査委員会は、第 2 項 1)号及び 2)号の規定により審査を行った研究のうち、侵襲(軽微な侵襲を除く。)を伴う研究であって介入を行うものについて、当該研究の実施の適正性及び研究結果の信頼性を確保するために必要な調査を行い、研究者等に対して、研究計画書の変更、研究の中止その他当該研究に関し必要な意見を述べることができる。

5) 倫理審査委員会は、研究対象者に対する緊急の危険を回避するため等医療上やむを得ない場合、又は変更が事務的事項に関するものである場合(例:研究機関の名称・診療科名・所在地又は電話番号の変更、研究者の職名の変更等)を除き、倫理審査委員会から承認の文書を得る前に研究実施計画書からの逸脱又は変更を開始しないよう求める。

3 倫理審査委員会は、研究において、研究責任者が以下の事項を自ら直接又は分担研究者を経由して倫理審査委員会に速やかに文書で報告するよう求めるものとする。

- 1) 研究対象者に対する危険を増大させる又は指針対象研究の実施に重大な影響を及ぼす可能性のある変更
- 2) 侵襲を伴う研究における重篤な有害事象
- 3) 研究対象者の安全又は倫理指針対象研究の実施に悪影響を及ぼす可能性のある新たな情報
- 4) 倫理指針対象研究実施期間中における審査の対象となる文書の追加、更新又は改定が行われた場合の当該部分

4 倫理審査委員会は、研究の以下の事項について調査審議し研究者等に報告するものとする。

- 1) 研究の目的、内容及び条件
- 2) 研究結果及び発表の方法
- 3) その他必要事項

5 倫理審査委員会は研究責任者より終了報告書等が提出された場合、その内容を調査審議し必要に応じ追加報告を求めることができる。

6 倫理審査委員会は、研究責任者に対して倫理審査委員会が研究の実施を承認し、これに基づく研究者等の指示及び決定が文書で通知され、契約締結されるまで研究対象者を研究に参加させないように求めるものとする。

7 倫理審査委員会は、組織及び運営が倫理指針に適合していることについて、厚生労働大臣等が実施する調査に協力する。

#### (倫理審査委員会の運営)

##### 第5条

1 倫理審査委員会は、原則として半年に1回開催する。ただし、本会会長から緊急に意見を求められた場合には、随時に倫理審査委員会を開催することができる。

2 倫理審査委員会の開催に当たっては、あらかじめ倫理審査委員会事務局から文書で委員長及び各委員に通知するものとする。

3 倫理審査委員会は、以下の要件を満たす会議においてのみ、その意思を決定できるものとする。

- 1) 少なくとも、5名以上が参加していること
- 2) 第3条第1項第1号から3号の委員が各1名参加していること
- 3) 第3条第1項第4号の委員が2名参加していること
- 4) 男女両性を含むこと

4 採決に当たっては、審査に参加した委員のみが採決への参加を許されるものとする。

5 研究者と密接な関係のある委員は、その関与する倫理について情報を提供することは許されるが、当該研究に関する事項の審査及び採決への参加はできないものとする。

6 委員長が特に必要と認める場合には、委員以外の特別の分野の専門家(以下「専門委員」という)を倫理審査委員会に出席させて意見を聞くことができる。なお、専門委員は倫理審査委員会の審議と採決に加われない。

7 採決は出席した委員全員の合意を原則とする。委員全員の合意によらず議決する場合にあっては出席委員の大多数の意見をもって本倫理審査委員会の意見とすることができる。

8 意見は以下の各号のいずれかによる。

- 1) 承認
- 2) 修正の上で承認
- 3) 条件付き承認
- 4) 不承認
- 5) 保留(継続審査)

- 6) その他(既に承認した事項の取り消しを含む(研究の中止又は中断も含む))
- 9 倫理審査委員会は、審査終了後速やかに研究者等に、倫理審査結果を書面にて報告する。ただし、第4条5項の規定に従い終了報告等の際は書面での審査結果の報告は行わない。
- 10 倫理審査委員会は、以下に該当する事項について、迅速審査を行うことができる。迅速審査の対象か否かの判断は委員長が行う。
- 1)他の研究機関と共同して実施される研究であって、既に当該研究の全体について共同研究機関において倫理審査委員会の審査を受け、その実施について適当である旨の意見を得ている場合の審査
  - 2)承認済みの研究について、研究期間内の軽微な変更をする場合の審査。ここでの軽微な変更とは、研究の実施に影響を与えない範囲で、研究対象者に対する精神的及び身体的侵襲の可能性がなく、研究対象者への危険を増大させない変更をいう。
  - 3)研究対象者に対して最小限の危険(日常生活や日常的な医学的検査で被る身体的、心理的、社会的危害の可能性の限度を超えない危険であって、社会的に許容される種類のものをいう。)を超える危険を含まない研究に関する審査
  - 4)公衆衛生上の危害の発生又は拡大を防止するため緊急の研究に関する審査
- 11 迅速審査は、委員長又は委員長と委員長が指名した委員で行われる。委員長は、次回の倫理審査委員会で迅速審査の内容と判定を報告する。
- 12 研究者等は倫理審査委員会の審査結果について異議ある場合には、結果通知発行2週間以内に理由書を添えて倫理審査委員会に再審査を請求することができる。
- 13 倫理審査委員会は、審査及び採決に参加した委員名簿(各委員の職業、資格及び職名を含む)に関する記録、会議の記録及びその概要を作成し保存するものとする。なお、会議の記録の概要については次の各号により作成する。また臨床研究倫理審査結果通知書(写)を保存することをもって当該臨床研究の記録の概要の代用とすることを可能とする。
- 1)審査日時(迅速審査に於いては審査終了日を記録)
  - 2)開催場所(迅速審査に於いては「迅速審査」を明確に記録)
  - 3)出席委員名(迅速審査に於いては審査をおこなった委員名を記録)
  - 4)議題
  - 5)審査結果

(倫理審査委員会事務局の業務)

## 第2章 倫理審査委員会事務局

### 第6条

- 1 倫理審査委員会の設置者は、倫理審査委員会の実施に関する事務及び支援を行う者を指定し、倫理審査委員会事務局を設けるものとする。
- 2 倫理審査委員会事務局は、倫理審査委員会の設置者の指示により、以下の業務を行うものとする。
- 1) 倫理審査委員会の開催準備
  - 2) 倫理審査委員会の審査等の記録(審査及び採決に参加した委員の名簿、会議の記録及びその概要を含む)の作成及び公表
  - 3) 倫理審査結果通知書の作成及び研究者等への提出
  - 4) 記録の保存
  - 5) その他倫理審査委員会に関する業務の円滑化を図るために必要な事務及び支援
- 3 倫理審査委員会事務局は、必要に応じ本手順書の見直しを行い、改訂が必要な場合に、倫理審査委員会の承認を得るものとする。

## 第3章 記録の保存

(記録の保存責任者)

### 第7条

- 1 倫理審査委員会における記録の保存責任者は倫理審査委員会事務局長とする。

2 倫理審査委員会において保存する文書は以下のものである。

- 1) 当業務手順書
- 2) 委員名簿(各委員の職業、資格及び所属を含む)
- 3) 調査審議された資料等
- 4) 倫理審査委員会の審査等の記録(審査及び採決に参加した委員の名簿、会議の記録及びその概要を含む)
- 5) 書簡等の記録
- 6) その他必要と認めたもの

3 前項に掲げる記録は記録の保存責任者が定める適切な場所に保存する。

(記録の保存期間)

第 8 条

1 倫理審査委員会事務局長は、当該倫理審査委員会が審査を行った研究に関する審査資料を当該研究の終了について報告される日までの期間(侵襲(軽微な侵襲を除く。)を伴う研究であって介入を行うものに関する審査資料にあつては、当該研究の終了について報告された日から 5 年を経過した日までの期間)保存するものとする。ただし、当該研究を実施する者がこれよりも長期間の保存を必要とする場合には、保存期間及び保存方法について当該研究を実施する者と協議するものとする。

2 倫理審査委員会は、研究者等を経由して、研究責任者より研究終了の連絡を受けるものとする。

第 4 章 その他の事項

(秘密の保持)

第 9 条

倫理審査委員会の委員及びその事務に従事する者は、その業務上知り得た情報を正当な理由なく漏らしてはならない。その業務に従事しなくなった後も同様とする。

(公表)

第 10 条

倫理審査委員会の設置者は、当該倫理審査委員会の運営を開始するに当たって、倫理審査委員会の組織及び運営に関する規程並びに委員名簿を倫理審査委員会報告システムにおいて公表しなければならない。また、倫理審査委員会の設置者は、年 1 回以上、当該倫理審査委員会の開催状況及び審査の概要について、倫理審査委員会報告システムにおいて公表しなければならない。ただし、審査の概要のうち、研究対象者等及びその関係者の人権又は研究者等及びその関係者の権利利益の保護のため非公開とすることが必要な内容として倫理審査委員会が判断したものについては、この限りでない。